１　研究構想図

令和５年度　大垣市・安八郡安八町組合立東安中学校

研　究　構　想　図

【学校の教育目標】

心豊かで　たくましい生徒

【生徒の実態】

○授業中，課題に向かって主体的に取り組もうとする姿勢や，態度については概ね高まり定着している。

○仲間と協同して学習活動に向かうことができ，９割の生徒が，仲間と共に学ぶことが，自らの学習の成果につながっていると実感している。

○ペア，小集団において円滑な人間関係の中で学習に取り組むことができている。

▲１割の生徒が，授業の見通しがもてず，学ぶ楽しさを感じられていない。

▲発展的な課題や活用を意図した学習内容において，試行はするものの，うまくいかないと諦めてしまう生徒もおり，粘り強く課題解決に向かう姿が十分とは言えない。

【今日的課題から】

○変化の激しい社会において，受け身の対応ではなく，人との関わりの中で自ら課題を解決し，社会にとって意味のある解を提案し，社会自体をよりよい方向へと変化させていくことができる「生きる力」を有した人間が求められている。

【国立教育政策研究所「教育課程の編成に関する基礎的研究　報告書」より】

○生涯にわたって学び続ける力や主体的に考える力を持った人材を育成するために，従来のような知識詰め込み型中心の授業から，教師と生徒，生徒相互が意思疎通を図りつつ，一緒になって切磋琢磨し，相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り，生徒が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学習（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。

【中央教育審議会「質的転換答申」より】

【研究主題】

自ら課題解決に向かい，「学ぶ楽しさ」を仲間と共に味わえる生徒の育成

～「小集団での学び」を効果的に活用した指導を通して～

≪東安中学校が考える「学ぶ楽しさを味わえる生徒」とは≫

学習の過程や成果に満足感や充実感をもち，自己の変容を自覚する生徒

≪東安中学校が大切にする「小集団での学び」とは≫

自力解決をしながらも，困った時には仲間の力を借りて問題を解決したり，自分とは異なった見方・考え方をする他者と対話をしたりすることを通して，自分だけでは到達し得ない学びを実感し，互恵的な学びを成立させる手段

≪研究仮説≫

生徒の実態や学習内容の系統性を踏まえ，学びに必然をもたせることができるように指導計画を工夫し，単位時間の指導において教科の特性を生かすとともに，「小集団での学び」を基盤にして，学びを深める指導の工夫を重ねていき，自己の変容を自覚させることができれば，学ぶ楽しさを仲間と共に味わえる生徒を育成することができる。

≪研究内容≫

１　指導計画の工夫

（１）生徒の実態や学習内容の系統性を踏まえ，生徒の学びに必然をもたせる指導計画の作成

２　指導方法の工夫

（１）生徒が主体的に学び，学習のねらいを達成するための，教科の特性を生かした指導方法の工夫

（２）「小集団での学び」を基盤にし，学びを深める指導の工夫